

第2次福岡市立高等学校活性化検討委員会報告書《概要》

市立高校の現状

市立高校活性化の取り組み

平成12年度 福翔高校の総合学科改編
平成15年度 博多工業高校の類・コース制導入
平成17年度 福岡西陵高校の学校規模適正化

課題

市立高校の存在意義が不明確
生徒の進路意識の多様化
専門学科における進学希望者の増加

市立高校の将来像

将来的に再編する方向で検討を進めるのか、改革を推進するのについては結論に至っていない。

市民に必要とされる
高校教育の推進

特色ある高校づくり
の推進

多様な進路希望を持つ
生徒の進路実現

【市立高校の存在意義】

市内の中学生が学びたいと思う高校、保護者が安心して進学を勧める高校でなければ存在する意義はない。

福岡女子高校の在り方

志願倍率の状況 平成14年度 1.46倍 → 平成19年度 1.04倍（長期低落傾向）

（原因）生徒の進路希望が十分に実現できていない。
生活指導面で中学校、保護者、地域からの信頼が低下。

今後決定する必要がある事項

学科枠組みの改編

男女共学化の是非

市立高校教員の人材育成の在り方

現場の教員一人一人が問題意識や危機意識を持って指導力向上に取り組む必要がある。

各学校での組織的・計画的な
研修体制の構築

教育センターにおける
研修内容の充実化

県立高校との人事交流や
中学校との人事異動

中高の教員区分の弾力化
など教員採用方法の検討

今後の市立高校改革に向けて

部活動の推進

・中学校との交流
・指導教員の人事交流

市民生活に必要な教育の推進

・マナー教育等の推進

新たな教育課題への対応

・社会人聴講生の受入れ
・外国籍生徒や不登校生徒
への支援